

## 日本ポロ宿紀行

上明戸聡著

書名の「ポロ宿」に惹かれ、手に取り、冒頭と中間に挟まれた三十数ページのカラー写真に見入る。本文を読んで一緒に旅をしている気になり、西伊豆の山光荘に今もある蔵座敷が出てきた時には、つげ義春「長八の宿」を本箱の奥から引っ張りだしてきた。

北は青森県八戸市の新むつ旅館から、南は鹿児島県出水市の旭屋旅館まで、著者が泊まった二十数軒のポロ宿（もちろん褒め言葉）と、近辺の見どころを紹介した旅行記。怖いもの見たさも含め、ちょっと変わった旅をしたい人には魅力的なガイドブックだ。

人柄がにじみ出ていると思える素朴な文体が、いささか寂れて、どこか懐かしい旅館の雰囲気にとっても似合っている。宿の印象は、そこを切り盛りしている女将おかみや主人と客とのあいだの呼吸で決まるということもよくわかった。

本書は評判のブログから生まれた。その痕跡は、ブログにありがちな変換ミスやミスタイプにも残るが、それさえもが「ポロ宿紀行」の味わいとして許せてしまう。それに引き換え、近ごろはビジネスホテルばかりを選んで泊まる我が旅の味気なさが身に沁しみみた。（鉄人社、1400円）